

支局名	出張所 (派出所)	製鹽方法	市町村名	製造人員	製造場數	製鹽地段別	生産見込高	合計	
								内 譯	(宮古) 計
右ノ外沃度硝石副産製鹽及再製鹽ノ許可セルモノ左ノ如シ		揚潁鹽田臺取 直接火力使用 計	本部村	九	九	五二〇八 ^町	一、四二二 ^斤	計	計
			大宜味村	六	六	二五二一	六、〇八五		
			伊良部村	一九三	一八四	一八、七二〇五	三一三、二七〇		
			下地村	五九五	五九五	七、〇三一八	一七、二四〇		
			平良村	五一	五一	一、二二〇六	二四〇		
			入濱鹽田	七一	七一	七四〇五	四〇		
			揚濱鹽田	七一七	七一七	八、九九二九	一七、五二〇		
			海水製鹽	六、八〇九	二、四五六	二二八、五〇〇二	一二、二三四、六九一		
			入濱鹽田	一二、三五九	七、二九五	六、〇八九、六七二九	九六八、四〇六、三八五		
			再製鹽	六、六六四	五、五一六	五、九〇五、〇九一八	九二八、九九〇、〇四〇		
副産鹽	一、六六六	一、二五三	一八二、八一〇九	二二、三五八、五九六					
計	四、〇二八	五二五	一、七七〇二	一六、八〇七、七四九					
計	一一〇	一二一		二五〇、〇〇〇					
計	五三	五五		二、九一八、四三二					
計	六七	六六		七四、一二八、〇五〇					
計	一一〇	一一一		七七、〇四六、四八二					

第二節 製鹽ノ狀況

東京專賣支局管内、水戸專賣支局管内、三春專賣支局管内、小出雲
 專賣支局管内、名古屋專賣支局管内、神戸專賣支局管内、高粱專賣
 支局管内、味野、尾道、阪出、三田尻專賣支局管内、撫養專賣支局管内、

熊本專賣支局管内、鹿兒島專賣支局管内製鹽地寫眞

製鹽禁止地ハ全國各所ニ散在セル爲其ノ製鹽地ノ狀況同カラサルノミナラス製鹽方法亦頗ル多岐ニ涉リ隨テ其ノ設備同一ナラス左ニ其ノ概要ヲ敘述スヘシ

東京專賣支局管内

管内製鹽方法ハ何レモ鹽田製鹽ニシテ揚濱、入濱ノ二種アリ其ノ概況左ノ如シ

(一宮地方) 採鹹地ハ南總一帶ノ沿岸所謂九十九里濱ノ官有砂濱ヲ其ノ儘利用スルモノニシテ

何等區劃境界アルニ非ス盛夏ノ候農漁ノ餘暇僅ニ數日採鹹ヲ爲スニ止レリ採鹹ハ箆取方法

ニシテ其ノ鹹水ハ自宅ニ擔送シ構内納屋ノ一隅ニ於テ雜木ヲ燃料トシテ煎熬ヲ爲セルモノ

ニシテ殆ト自家用鹽ヲ得ルニ過キス而シテ結晶釜ノ如キ漁業兼用ヲ普通トス飯岡町ニ在リ

テハ鹹水製造許可ヲ受タル者四人ニ對シ買入鹹水製造者一人ニテ製鹽セルモノアリ蓋シ往

時交通機關備ハラサリシ時代ニ在リテハ市場ニ搬出シテ一般ニ供給シタリシモノナルモ今

ハ唯其ノ遺習ヲ留ムルニ過キスシテ自然廢滅ノ状態ニ在リキ(參看第一圖、第二圖)

(行徳^五八^井幡^井橫濱地方) 入濱鹽田ニシテ箆取、臺取ノ二種アリ大師河原ヲ除クノ外微々タル鹽田ニ

シテ見ルヘキモノナシ燃料ハ主トシテ薪ヲ使用シ稀ニハ石炭ヲ用ウルモノアリ釜屋ハ大同

小異ニシテ八幡、大師河原ノ如キハ單獨使用シ完備セル設備ヲ爲セルモノアルモ金澤、六浦莊

ノ如キ共用ノモノアリテ居宅構内ノ納屋ニ於テ煎熬セルモノアリ殊ニ六浦莊ノ如キ山脚ノ

土窟ヲ釜屋ニ利用シ煎熬ヲ爲スモノアリ概シテ不振ノ状態ニ在リ製鹽者ハ何レモ副業ニシ

テ農又ハ商ノ餘暇ニ從事スルモノノミ(參看第三圖、第四圖)

水戸專賣支局管内

管内製鹽方法ハ、鹽田製鹽、枝條架製鹽及海水製鹽ノ三種アリ、海水製鹽ハ、蒸氣熱使用ノモノアリ、直接火力使用ノモノアリ、又ハ、枝條架ヲ併用セルモノ、或ハ、鹽田製鹽ヲ兼ネタルモノアリ、

(鹽田製鹽) 揚濱直接火力使用ニシテ、茨城縣那珂郡多賀郡、福島縣石城郡及双葉郡ノ沿海太平洋

ヲ受タル官有砂地ヲ使用セルモノニシテ、一定ノ區畫ナキ波寄ノ砂地、其ノ儘ニテ、箆取又ハ槽取ニテ採鹹シ何等定著ノ設備ヲ爲セルナシ、一人三四畝歩ツ、持分ヲ定メ、共同借入使用スルモノニシテ、釜屋ハ崖邊稍高所ニ建設シ、極テ粗造ナル堀立小屋ニテ、纔ニ雨風ヲ避クルニ足ルノミ交互ニ共用煎熬シ、附近松樹多キヲ以テ主トシテ之ヲ燃料ニ充テ、農暇ノ餘業ト爲セルニ

過キス(參看第五圖第六圖第七圖)

(枝條架製鹽) 海岸ニ設ケラレタル枝條架ニ海水ヲ注キ濃縮シテ煎熬ヲ爲スモノニシテ、其ノ構造操作ハ三春支局土崎地方ニ記載ノモノト略同一ナルモ、唯異ル點ハ海水ノ汲揚ニ、彼ハ石油

機關ニ依リ唧筒ヲ運轉シ、當地方ハ手押唧筒ニ依リ人力ヲ以テスルニ在リ、枝條架製鹽ニシテ鹽田製鹽ヲ兼ヌル者一、海水製鹽ヲ兼ヌル者一アリ、燃料ハ石炭ヲ使用ス、製鹽者ハ農或ハ鑛業ヲ兼業ト爲ス者ナリ(參看第八圖)

(海水製鹽) 管内ハ常磐炭ノ產地ナルヲ以テ之ヲ燃料ニ充テ、海水製鹽ヲ爲スモノ多シ、其ノ簡單ナルモノハ福島縣下ニ於テ一箇ノ結晶釜ヲ用井テ煎熬セルモノアルモ、二三ノ結晶釜及之ニ相當セル附屬蒸發釜ノ外、ケートル釜ナルモノ(鐵製長十一尺巾十尺深三尺三寸厚一分五厘徑二尺焰管付但シ大小種々アリ)ヲ敷設シ、尙採鹹裝置トシテ、枝條架ヲ補設セルモノアリ、テ其ノ設備ハ製鹽事業トシテ稍見ルヘキモノアリシモ、何レモ未收支相償フ迄ニ有望ノモノナク、炭價ノ高低ハ直ニ其ノ事業ニ影響ヲ來シ爲ニ、或ハ製鹽シ或ハ休止シ殆ト定リナキノ狀況ナリ

就中大ナルモノハ小名濱町ニ於ケル小名濱製鹽株式會社ヲ最トシ生産許可高三十萬斤以上ノモノ松原松岡北中郷窪田鮫川廣野等ノ各町村ニ十四箇所アリ内蒸氣熱ヲ使用セル所謂機械製鹽ト稱スヘキモノハ小名濱製鹽株式會社及窪田村ニ於ケル五段釜ト稱シ新案設備ヲ爲セルモノニアルノミ左ニ其ノ主ナルモノニ付製鹽設備ヲ概説スヘシ(參看第九圖)

蒸氣熱ヲ使用スルモノ (小名濱製鹽株式會社)

(イ)海中ニ鐵管ヲ突出シ蒸氣力ニヨリ唧筒ヲ以テ海水ヲ吸揚シ先冷却器ニ移送シ冷却器内ニ貫通セル數十條ノ「パイプ」ヲ冷却セシム此ノ冷却ニ依リ該「パイプ」内ニ真空作用ヲ起サシムルト同時ニ「パイプ」内ノ蒸氣熱ニヨリ器内ノ海水ハ多少ノ蒸發ヲ爲サシム(ロ)幾分蒸發ヲ爲シタル冷却器内ノ海水ハ「ボイラー」ニ移送シ火力ヲ以テ蒸發ヲ行フ(ハ)冷却器内ヲ貫通セル「パイプ」ニハ「ボイラー」内ノ蒸氣ヲ排出セシムル裝置ニシテ右「パイプ」内ハ(イ)ニ述ヘタル如ク真空ヲ起スト同時ニ又「ボイラー」内ヲシテ真空ナラシム(ニ)「ボイラー」内ニ冷却器内ノ海水ヲ移送スルニハ細管ヲ以テスルモノニシテ「ボイラー」内ハ常ニ真空ヲ保ツヲ以テ小孔ヲ開ケハ自然ニ充實スル裝置ヲ爲セリ(ホ)「ボイラー」ニテ濃縮シタル鹹水ハ之ヲ蒸發釜ニ移送ス其ノ方法ハ「ボイラー」上ノ鐵管即チ冷却器ニ通スル「パイプ」口ヲ閉塞スルトキハ「ボイラー」内ハ直ニ氣壓ヲ生スルヲ以テ其ノ充實シアル鹹水ハ爲ニ他方ニ排出サルルカ故ニ鐵管ヲ以テ之ニ導キ蒸發釜ニ移送スルモノトス(ヘ)蒸發釜ハ二段ニ區劃セラレ上段ハ下部ヨリ發生スル蒸氣ヲ通シタル數條ノ「パイプ」ヲ裝置シアリテ濃縮スルト同時ニ石灰鹽類其ノ他ノ夾雜物ヲ沈澱セシメ更ニ下段ニ移シ一層濃厚ナラシム(ト)斯クシテ濃縮シタル鹹水ハ之ヲ濾過ノ上結晶釜ニ移シ蒸發結晶セシムルモノトス(參看第十圖)

蒸氣熱ヲ使用セサルモノ (岩松善次郎製鹽場)

(イ) 徑五吋ノ鐵管ヲ海中ニ突出シ石油發動機(六馬力)ニヨリ唧筒ヲ以テ海水ヲ吸入シ輸送樋ヲ通シテ之ヲ海水槽ニ送り此處ニ之ヲ貯溜ス(ロ)海水槽ヨリハ蒸發釜及結晶釜ノ焚口ノ下部ヲ經テ海水ノ輸送中幾分ノ溫度ヲ増サシムル爲鐵管ヲ貫通シ各溫釜及各蒸發釜ニ連絡セシム(ハ)其ノ鐵管ニ依リ海水ヲ溫釜ニ注入シ多少ノ蒸發ヲ爲サシメ之ヲ蒸發釜ニ移入シ火力ヲ以テ蒸發セシム(ニ)蒸發釜ノ上部ニ旋風器ト稱シ推進機ニ類スル裝置ヲ施シ釜ヨリ發散セル蒸汽ヲ煽出シ蒸發ノ促進ヲ計レリ(ホ)蒸發釜ニ於テ「ボーマー」氏比重十五度内外ニ濃縮シタルトキハ之ヲ「ケートル」釜ニ移入シ直火ヲ以テ更ニ蒸發濃厚ナラシム(ヘ)「ケートル」釜ニ於テ「ボーマー」氏二十三度内外ニ濃縮シタルトキハ沈澱釜ニ移シ約八時間冷却シテ汚物及石灰鹽類ヲ沈澱セシメ後結晶釜ニ移シ蒸發結晶セシム(參看第十一圖)

三春專賣支局管内

管内製鹽方法ハ鹽田製鹽、海水製鹽、枝條架製鹽及鹹泉製鹽ニシテ其ノ概略ヲ記載スレハ左ノ如

(中村地方) 鹽田製鹽ニシテ揚濱ト入濱トアリ揚濱ハ福浦ニ於ケル沿海官有砂地ヲ使用セルモ

ノニシテ其ノ狀態ハ水戸支局管内双葉郡ノ揚濱ニ異ラス入濱ニ在リテハ姥澤浦、松川浦、新沼

浦、鳥ノ海等ノ瀾内ニ開築セルモノニシテ之ニ流下スル各川ノ土砂ハ外洋波浪ノ爲沼口ニ堆

積シ爲ニ淡水渚溜シ採鹹ニ適セス年々荒廢ニ歸シ昔日ノ觀ヲ存スルモノナキ狀況ニ在リ建

物設備等概シテ粗造ニシテ見ルヘキモノナク特ニ他地方ニ見サルモノハ松ヶ江、新地方方面ニ

テ岩窟ヲ穿鑿シテ鹹水溜又ハ鹽貯藏場トナセルモノアリ又鹹砂ヲ均スニ「ばらひ竹」ヲ用ウル

モノアリ(參看第十二圖)

(三陸地方) 三陸地方ノ製鹽地ハ渡波、氣仙沼、盛宮、古久慈ノ各出張所ニ涉リ交通不便ノ地方ノミ
ニシテ鹽田製鹽ト海水製鹽トノ二アリ

鹽田製鹽ハ總テ入濱鹽田ニシテ陸前及陸中ノ南部氣仙沼外五箇村ニ涉レルモ採鹹地ノ乾燥
十分ナラスシテ製鹽ニ適セス殊ニ盛町ニ於ケル鹽田最甚シ製鹽者ハ家族勞働ニシテ一人二
三段歩内外ニテ採鹹シ煎熬場ハ之ヲ共用セリ建物ハ概シテ巨大ノ木材ヲ使用シ其ノ構造モ
廣大ナルモノ多シ釜ノ如キモ頗ル粗大ニシテ燃料ハ雜木ヲ用ウ(參看第十三圖)

海水製鹽ハ三陸沿岸ニ涉リ里餘又ハ數里ヲ隔テテ點々散在ス多クハ交通至難ノ峻阪ヲ以テ
自ラ境スルノ状態ニアリ製鹽場ハ太平洋岸ノ崖側ヲ拓キテ築造シ高ク足場ヲ設ケテ外洋ノ
海水ヲ汲揚ケ樋ヲ通シテ製鹽場内ニ輸送シ直ニ煎熬ス竈ハ高サ丈餘ニ及ヘル粗造ノモノニ
シテ釜ハ十數石ヲ入ルヘキ尨大ノモノヲ用井燃料ハ木材豐富ナルヲ以テ附近林野ヨリ巨大
ノ木材ヲ伐採シテ使用ス此ノ地方農漁ノ利甚薄ク製鹽ハ比較的重要ナル生計ノ資料タリシ
如シ久慈地方ノ如キハ許可名義者一人ニ對シ之ニ附屬スル煮子ト稱スル十數人ノ煎熬者ア
ルモノアリ製鹽組織頗ル幼稚ニシテ父祖ノ遺業トシテ曾テ何等改良施設アルヲ見ス(參看十

四圖第
十五圖)

(兩羽地方) 秋田縣濱田、道川方面ニ於ケル鹽田ハ揚濱槽取ノ方法ニシテ採鹹地ハ日本海沿岸ノ
打寄濱ニシテ東京、水戸支局管内ニ於ケル揚濱ト同一ナルモ此ノ地方ニ在リテハ民有地ニシ
テ地目鹽田トナレリ然レトモ何等區畫境界ノ存スルナシ煎熬場ハ岡手高所ニ在リ極メテ粗
造ニシテ共同使用ノモノアリ燃料ハ雜木ヲ使用シ總テ家族勞働ノミ
山形縣念珠ヶ關ニハ海水製鹽一、枝條架製鹽一アリ

枝條架製鹽ハ海中ヘ鐵管ヲ通シ石油發動機ニ依リ唧筒ヲ以テ海水ヲ吸收スルト共ニ竹枝ヲ

十數段疊積シタル架幅九尺長二十間高二十五尺上ニ設ケアル木樋ニ注入ス該木樋ノ側面ニハ小孔アリテ海水ハ竹枝ニ傳ハリ徐々ニ滴下スルノ際日光及風力ノ爲水分ハ蒸發シ濃厚トナリ最底部ノ樋ヲ經テ溜ニ入ル斯クシテ得タル鹹水ハ「ボーマー」氏比重七度位ニシテ尙煎熬ニ適セサルニ依リ枝條架四基ヲ設ケ前記ノ操作ヲ反覆シテ比重十度位ニ至ラシメ之ヲ煎熬釜ニ送り蒸發結晶セシム海水製鹽ハ越羽鹽炭株式會社ノ經營ニ係リ小規模ノ採炭ヲ爲シ賣炭ノ傍ラ之ヲ利用シ製鹽ヲ營メルモノニシテ一時休止ノ状態ニ在リシモ明治四十二年十二月頃骸炭製造ノ餘熱ヲ利用シ製鹽スルノ計畫ヲ立テ設備ヲ爲シタルモ失敗ニ歸セリ其ノ後ハ規模ヲ縮少シ僅ニ海水ヲ桶ニテ運搬シ溫釜ニテ微溫ヲ與ヘ結晶釜ニテ煎熬シ辛シテ製鹽事業ノ命脈ヲ保テルノミ(參看第十六圖)

(淺虫溫泉熱利用製鹽) 製鹽地ハ青森市ヲ去ル九哩餘野内村大字淺虫ニ在リ附近一帶攝氏四十九度乃至七十五度半ノ溫泉ヲ湧出シ浴場トシテ著名ノ地ナリ製鹽ハ右溫泉熱ヲ利用シ海水ヲ濃縮シ鹹水ヲ得テ煎熬スルモノニシテ他ニ類例ヲ見サルモノトス即チ穿井ヨリ湧出スル溫泉ヲ瀦溜シ之ニ蒸發鍋(長六尺巾五尺九寸深六寸ニシテ厚三厘ノ鐵板ヲ以テ造リタルモノ)ニ百餘箇ヲ架ケ海水ヲ注入シテ蒸發セシメ「ボーマー」氏比重十二三度乃至十五六度ニ至レハ濾過シテ溫釜ニ送り更ニ煎熬釜ニ移シ蒸發結晶セシム一箇年生産許可高四十萬斤ナリ本製鹽ノ起原ハ明治十二年青森縣廳ニ於テ溫泉熱ヲ利用シ海水ヲ蒸發シ製鹽試驗ヲ行ヒシニ其ノ成績良好ナリシヲ以テ明治十三年舊弘前藩廢卒(知進社)ノ授産事業トシテ其ノ管理ニ屬セシメタルニ創レリト謂フ(參看第十七圖)

(伊北鹹泉製鹽) 地中ヨリ湧出スル鹹泉(冷泉)ヲ燃料ヲ用井直接煎熬スルモノニシテ其ノ鹹泉井ハ若松市ヲ隔タル二十里、福島縣南會津郡伊北村鹽澤川沿岸崖地ニ在リ井ノ口徑三尺深十五

尺鹹泉ノ湧出量一晝夜四石餘ニシテ唧筒ヲ以テ汲揚ケ濾過ノ上温釜ニ注入シ更ニ結晶釜ニテ煎熬ヲ爲ス鹹泉約三斗ヨリ鹽一升(三百匁)ヲ製出シ得ヘク一箇年生産高約二萬斤ナリ釜屋ハ一棟ニシテ煎熬釜二箇温釜三箇ヲ設備シ極テ微々タルモノナリ製鹽ノ濫觴ハ大同年間弘法大師此ノ地ニ巡錫ノ際村民ニ製鹽方法ヲ教授シタリト傳フ爾來同村持ノ事業トシテ其ノ業ヲ繼續シ來リ禁止ノ際四十五名ノ製鹽者アリ製鹽用器具ハ製鹽禁止後ハ記念トシテ保存スヘシト謂フ鹹泉百立方センチメートル中ニ含有スル成分左ノ如シ

比重	一、〇一八	固形分	一二・三二
鹽化曹達	一、八八	鹽化加里	〇、一四
硫酸苦土	〇、一〇	重碳酸石灰	少量
重碳酸苦土	少量	硅酸及硅酸鹽	僅微
鐵及礬土	僅微	硼酸	僅微
沃素	僅微	固形分ニ對スル鹽化曹達ノパーセンテージ	八一

小出雲專賣支局管内

製鹽地ハ夷新澗直江津ノ三出張所管内ニ屬シ何レモ鹽田製鹽揚濱槽取ノ方法ニシテ採鹹地ハ自然ノ砂濱ニシテ何等加工ヲ施サス地目鹽田トナレルモ全ク境界ナク官有砂地ト區分シ得ヘカラス煎熬場ハ採鹹地ニ接シタル丘陵或ハ稍隔リタル住宅構内ニ築造セラレ納屋兼用ノモノ多シ燃料ハ雜木ヲ使用シ農業又ハ漁業ノ副業トシテ家族相率ヒテ之ニ從事セリ是等製鹽地モ從前ハ盛ニ製鹽シタリシモノナルモ交通便利トナレルニ隨ヒ十州鹽ノ移入ニ伴ヒ漸次衰頽ヲ來セリ(參看第十八圖第十九圖)

名古屋專賣支局管内

製鹽地ノ狀況ハ各地其ノ趣ヲ異ニシ東黒部神社半田ノ如キ殆ト十州式入濱鹽田ノモノアルモ
 靜波見付及北陸地方ノ如キ自然ノ砂濱鹽田ノモノアリ鹽津ニハ流動式鹽田ノ如キ特殊ノモノ
 アリ長野縣大鹿村ニハ天然湧出ノ鹹泉ヲ煎熬製鹽スルアリ製鹽操作、製鹽方法、亦頗ル多岐ニ涉
 レリ其ノ概況ヲ摘録スレハ左ノ如シ

(東黒部神社地方) 管内中大規模ノ入濱鹽田ニシテ製鹽業者亦殆ト專業的ニ斯業ニ從事シ製鹽
 地ノ状態採鹹操作煎熬方法等十州式ト大同小異アルノミ唯特ニ記スヘキハ東黒部出張所管
 内ニハ數釜屋共通ノ煙突ヲ設ケタルモノアリ神社出張所所屬中濱鄉村大字一色ニハ松葉灰
 ト石トニテ築造セル長三間幅二間深九寸ノ煎熬釜ヲ用井燃料ニ松葉粗朶等ヲ混用セルモノ
 アリタリ(參看第二十圖)

(靜波見付地方) 採鹹地ハ全部自然ノ砂濱ニシテ採鹹休止中ハ四圍ノ網干場等ト區別ヲ認メ難
 キ状態ニシテ煎熬場ハ稀ニハ採鹹地ノ附近ニ在ルモ概シテ海岸ヲ距ル數町ノ住宅ト同一構
 内又ハ路傍ニ建設セラレ甚キハ單ニ外野ニ竈ヲ築キ容量七八斗ノ鐵製丸釜ヲ使用シ煎熬ヲ
 爲スモノアリ燃料ハ何レモ薪材ヲ用井製鹽器具亦極テ粗雜ニシテ製鹽業ハ僅ニ漁農又ハ製
 茶ノ餘暇ニ從事スルニ過キスシテ自家用鹽トシテ檢査ヲ受ケタル殘餘ヲ納付スルカ如キモ
 ノ尠カラス

(濱松地方) 採鹹地ハ濱名湖ニ沿ヒタル篠原村舞坂村ニ在リ何レモ入濱鹽田ナルモ規模甚小ニ
 シテ加フルニ鹽田ハ堤防ナキヲ以テ快晴ニシテ風波ナキトキノ外採鹹スル能ハス器具亦簡
 單ニシテ普通入濱鹽田ト其ノ趣ヲ異ニス漁農又ハ養蠶ノ餘暇ニノミ從事シ採取鹹水ハ何レ

モ樽ニ詰メ雄踏村ノ買入鹹水製造者ニ賣却シ自ラ煎熬セサルモノニシテ所謂鹹水製造者ノミナリ雄踏村ニハ一人ノ鹽製造者アリテ買入鹹水ノミヲ煎熬シ燃料ハ石炭ヲ用井煎熬器具ハ十州地方ニ使用ノモノト大同小異アルノミ(參看第二十二圖)

(鹽津地方) 製鹽地ハ何レモ入濱鹽田臺取ナルモ其ノ規模小ニシテ堤防不完全ナル爲滿潮時ハ常ニ潮水ノ浸漲スル所トナリ從テ採鹹日數少ク農業ノ餘暇製鹽ニ從事スルニ過キス燃料ハ主トシテ石炭ヲ用フルモ福江町ノ煎熬場ハ居室ト同一構内又ハ納屋ノ一隅ニ在リテ薪材ヲ用ウ大塚村ニハ流動式鹽田ト稱シ採鹹地ヲ「セメント」竝煉瓦ニテ構成シ(二百分ノ一ノ勾配ヲ附ス)撒砂ヲ用ウルコトナク海水ヲ鹽田面ニ汲揚シ時々海水ヲ攪拌シテ濃縮セシメ鹹水ヲ採取セルモノアリ其ノ煎熬ニ至リテハ別ニ異ナレル所ナシ(參看第二十四圖)

(加賀能登地方) 揚濱鹽田槽取ニシテ鹽田ハ能登ノ一部ニ粘土ヲ以テ其ノ地盤ヲ築造シタルモノアル外何レモ自然ノ砂濱ニシテ採鹹休止ノ際ハ他ノ網干場ト殆ト差異ナシ採鹹器具ハ粗雜簡單ナルモノニシテ鹹水浸出ハ臺及箱又ハ桶ヲ以テ組立テタルモノヲ使用シ採取鹹水ハ何レモ貯藏桶ニ收容ス燃料ハ松葉及粗朶ヲ用井煎熬釜ハ鑄鐵製丸釜ナリ規模小ニシテ漁農又ハ養蠶ノ餘暇之ニ從事スルニ過キス一煎熬場ヲ數人ニテ共同使用スル如キモノアリ(參看第二十五圖)

(越前若狹地方) 揚濱鹽田槽取ニシテ鹽田ハ築造ニ係ルモノト自然ノ砂濱ヲ使用スルモノト相半セリ製鹽ノ状態ハ加賀能登方面ト大同小異ナルモ獨リ城崎村ノ煎熬釜ハ蛸ノ貝灰ノミヲ以テ築造セラレ其ノ大サ約長一丈二尺幅九尺深四寸アリ他ニ類例ナキモノニシテ二人乃至六人ニテ共同使用ス燃料ハ若狹地方ニ在リテハ一般ニ薪材ト粗朶ヲ混用スルモ其ノ他ハ松葉及粗朶ヲ混用ス(參看第二十六圖)

(大鹿鹹泉製鹽) 長野縣飯田町ヲ距ル八里ノ山間ニ位スル村落ニシテ此ノ地一帯ニ鹽類泉湧出シ就中著名ナルモノハ鹽畑ニシテ四井アリ中三箇ハ専ラ浴湯用ニ供セラレ四井中最大ナル鹹泉ヲ鹽製造及浴用ニ供セリ鹹泉ハ深約二十尺ノ穿井ヨリ湧出シ鹹度ハ「ボーメー」氏比重三度内外ニシテ汲揚タル鹹水ハ溫釜及結晶釜ヲ用井薪材ヲ以テ煎熬セラレ一箇年製鹽見込高五百斤ナルモ實際ノ生産ハ百斤未滿ニシテ明治四十一年以降ハ全ク休止シ居タルカ如キ實ニ其ノ業態タル微々タルモノナリ

神戸專賣支局管内

製鹽地狀況ハ各地多少趣ヲ異ニスルモ地方別ニ大別シ製鹽業ノ狀態ヲ概録スレハ左ノ如シ
 (紀三井寺地方) 紀三井寺地方ハ入濱鹽田ニシテ製鹽方法ハ十州ト異ラス唯大崎村ハ所謂百姓濱ニシテ一戸前二三段歩ヲ製鹽セリ紀三井寺ニハ一人ニテ數戸前ヲ有シ製鹽セルモノアリテ骸炭製造ノ餘熱ヲモ利用シ明治四十三年度整理中交付金ノ最多額ナリシモノナリ設備器具器械ハ十州ト大差ナキモ唯他ニ例ヲ見サルハ鹹水ノ輸送起點トシテ會所ト稱スルモノヲ設ケタリ(參看第二十九圖第三十圖)

(田邊地方) 製鹽地ハ總テ入濱鹽田ナルモ規模小ニシテ堤防ナキモノアリ所謂百姓濱ニシテ漁農ノ副業ト爲シ採鹹日數少ナク製鹽器具ノ如キ甚粗雜簡單ナリ而シテ採取鹹水ハ何レモ貯藏桶ニ收容シ居宅ノ一隅又ハ居宅ト同一構内ニ煎熬場ヲ設置シ容量約五斗ノ鐵製丸釜ニテ煎熬シ燃料ハ何レモ松葉及粗朶ヲ用井タリ(參看第三十一圖)

(丹後地方) 採鹹地ハ自然的砂濱ノミニシテ一戸前六畝歩内外ニ過キス製鹽器具モ粗雜簡單ニシテひぶねがわ及うまト稱スル臺及桶様ノ物ヲ組立テ鹹水浸出ニ供シ煎熬場ハ獨立使用セ

ルモノ多キモ數人ノ共同使用ニ係ルモノ尠カラズ燃料ハ何レモ粗朶ヲ使用セリ製鹽ニハ農
其ノ他主業ノ餘暇ニ從事セルノミニシテ近年舞鶴ノ築港工事等ノ土工起リ收入ヲ得ルノ途
生シテヨリ一層斯業ニ不熱心ニシテ全ク休止シ居ル者又ハ自家用鹽ヲ目的トシテ製鹽スル
者尠カラサルニ至レリ

高粱專賣支局管内

管内ニハ製鹽地トシテ僅ニ東村一村アルノミ製鹽地ハ自然ノ砂濱ニシテ一戸前四畝歩内外ナ
ルカ如キ頗ル小規模ナリ製鹽器具モ北陸地方ノ揚濱鹽田ニ使用ノ物ト大同小異ニシテ採取鹹
水ハ居宅ノ軒下ニ桶ヲ据付ケ貯藏シ鐵製角形ノ結晶釜及同丸形ノ溫釜各一箇ヲ用井薪材ヲ以
テ煎熬セリ煎熬場ハ何レモ共同使用ニシテ僅ニ副業トシテ之ニ從事シ共ニ自家勞働ナリ

味野、尾道、三田尻、阪出專賣支局管内

此ノ四支局ニ屬スル整理地ハ其ノ製鹽方法ニ於テ特ニ異レルモノナキヲ以テ一括シテ概況ヲ
錄スヘシ是等整理地ハ産額僅少ナルカ生産力ニ乏シク品質不良ナルヲ除クノ外ハ他ノ十州鹽
田ト異ル所ナシ製造方法ハ山口縣伊保庄須惠ノ二村ニ僅少ノ揚濱鹽田アルノ外他ハ全部入濱
鹽田臺取ニシテ岡山縣金浦町香川縣白鳥本町ノ如キ百姓濱ヲ除キ何レモ一町步乃至二町步ノ
採取地ニ對シ一煎熬場ヲ構ヘ稀ニハ一人ニテ數煎熬場ヲ兼營セルモノアリ廣島縣大津野村ノ
八戸前仁方町ノ八戸前山口縣麻里布村ノ六戸前厚南村ノ九戸前香川縣ノ引田町ノ六戸前愛媛
縣新濱村ノ十二戸前ハ集團ノ大ナルモノニシテ其ノ他ハ一二戸前ノ小産地ニシテ多クハ雇人
ヲ使用セリ但シ岡山縣金浦町香川縣白鳥本町ノ如キハ規模最小ナルモノニシテ七八人乃至十

四五人ノ製鹽者一團トナリ一煎熬場ヲ共用シ各自ノ採鹹地面積ハ一畝步沼井一臺分ヨリ二段歩位ニ及ヒ多クハ小作ニシテ農又ハ漁ヲ兼業トシ一家ヲ舉テ之ニ從事セリ揚濱鹽田ハ臺取ニシテ山口縣伊保庄須惠ノ二村ニアリシノミ共ニ堤防ヲ有シ他地方ノ揚濱ニ異レリ而シテ其ノ採鹹ハ撒潮ニ依リ鹹砂ヲ採收スルノ點ハ入濱ト異ルモ其ノ操作ハ大差ナシ(參看至第三十二圖乃至第三十四圖)

撫養專賣支局管内

(高知地方) 製鹽地ハ何レモ自然ノ砂濱ニシテ太平洋ニ面スル沿岸四十餘里ニ涉ルモ皆小規模ノモノノミニシテ煎熬場又ハ鹹水貯藏場ハ概シテ居宅ノ一隅或ハ之ト同一構内又ハ其ノ附近ニ三坪内外ノ物置納屋ノ如キ粗雜ナル建物アルニ過キス特ニ安藝地方ニ至リテハ煎熬場トシテ建物ナク外野ニ竈ヲ築キ晴天ノ時ニ限り煎熬スルモノ過半ニシテ偶煎熬場ノ大ナルモノアレハ數人ノ共同使用ニ係ル等其ノ業態實ニ微々タルモノナリ從テ製鹽ハ漁農ノ餘暇或ハ婦女子ノ業トシテ營メルノミ而シテ器具ノ如キモ多クハ自家製作ニ係ルカ如キ粗雜ナルモノニシテ煎熬釜ハ一石内外入ノ鐵製丸形ノモノヲ使用シ一般ニ松葉粗朶ヲ燃料ニ供セリ(參看至第三十五圖乃至第三十八圖)

(見能林地方) 許可段別五十町步餘ノ一集團地ニシテ人員二十場數二十四アリ製鹽地ノ狀態製鹽操作鹽業者ノ業態等純然タル十州式入濱鹽田ナルモ地質不頁ニシテ製鹽ノ色相惡シク生産力ニ乏シク且犯則ノ危險少カラサル地ナルヲ以テ集團地タルニ拘ラス整理ニ加ハレルモノナリ此ノ他福良町ニハ一戸前ノ製鹽地アリ十州式入濱鹽田ニテ特記スヘキモノナシ

熊本專賣支局管内

管内ニハ鹽田製鹽ト機械製鹽ノ二種アリ

(鹽田製鹽) 鹽田製鹽ハ全部入濱鹽田臺取ニシテ採鹹煎熬作業ノ状態ハ大體ニ於テ差異ナキモ之ヲ概別スレハ佐伯、杵築、津屋崎、廣田、口ノ津、文政、不知火地方ハ規模稍大ニシテ十州式ニ屬シ殆ト專業ト爲ス是等十州式ニ屬スル大分縣、福岡縣方面ニ於ケル製鹽者及從業者ハ多ク十州方面ヨリ移住セシモノニシテ一家ヲ舉テ斯業ニ從事シ小作人多ク長崎縣熊木縣ニ至リテハ土著ノモノ多シ煎熬釜ハ鐵釜ヲ用フルアリ石釜ヲ用フルアルモ燃料ニハ總テ石炭ヲ使用セリ其ノ製鹽組織十州地方ニ異ラス就中津屋崎ニ在リテハ三十五戸前ノ採鹹地ヲ津屋崎製鹽株式會社ニ於テ製鹽シ文政ニ在リテハ十三戸前ニ對スル採鹹地ヲ一人ニテ製鹽セルアリテ是等ヲ製鹽者ノ大ナルモノトス次ニ東大分、椎田、勝浦、今宿、加布里、佐々、時津、喜々、津腹、赤其ノ他伊萬里、天草地方等ノ如キハ多クハ數人共同シテ製鹽シ規模小ニシテ前者ニ劣レリ即チ五人乃至十人餘ノ製鹽者カ一煎熬場ヲ經營シ各人多キハ二三段少キハ六七畝歩ノ鹽田ニテ鹹水ヲ採取シ煎熬スルコトトナセリ稀ニハ製鹽專業者アルモ概シテ農、漁ヲ兼業トスルモノニシテ家族ハ老幼ヲ舉テ之ニ從事スルヲ常トス煎熬釜ハ過半ハ鐵釜ヲ用井煎熬器具ノ如キハ共用セリ燃料ニハ石炭アリ薪材アルモ概シテ石炭ヲ用フ西角田、角田、和白、福吉、宮、福島、御領、中田ノ各町村ノ如キハ十人内外ノ製鹽者一團トナリ粗雜ナル煎熬場ヲ建設シ輪番ヲ以テ各自煎熬セリ概シテ農又ハ漁業ノ閑散ナル時ヲ利用シ一段歩内外ノ鹽田ニテ採鹹シ製鹽ニ從事スルモノニシテ其ノ得ル處ハ纔ニ小使錢ニ充ツルニ過キス煎熬釜ノ如キハ殆ト全部鐵釜ニシテ其ノ價格モ廉ナルモノヲ用井器具類ノ如キモ極テ粗笨ナルモノ三四種ヲ備ヘ甚キニ至リテハ採鹹器具ノ如キ一時借入レ使用スルモノアリ又共同シテ相互ニ使用スルモノアリ(參看

第三十九圖乃
至第四十一圖)

(機械製鹽) 機械製鹽ハ蒸汽熱ヲ使用シ海水ヲ煎熬シテ製鹽スルモノニシテ福岡縣箱崎町ニ一箇所佐賀縣滿島村ニ一箇所アリ二者大同小異ナルニヨリ箱崎製鹽場ノ大要ヲ説明セムニ建物トシテハ事務室、分析室、宿直室、石炭秤量上家、備品庫、石炭庫、鍛冶場、汽罐室、結晶室、居出場貯鹽庫、包裝置場、苦汁貯藏場其ノ他附屬住宅等夫々區分建設セリ當製鹽場ハ海水ノ汲揚ヨリ煎熬ニ至ル迄總テ蒸汽力ヲ使用セルモノニシテ直立汽罐一箇ヲ備ヘ海水、鹹水ノ輸送原動機關ニ充テ二十八間ノ沖合ヨリ土管ヲ埋設シ井ヲ海濱ニ設ケ之ニ海水ヲ導キ更ニ樋ヲ通シ遠心唧筒ニテ之ヲ汲揚シ大「タンク」(三十尺ノ四角形ニシテ深四尺)ニ湛ユ「タンク」内ニハ鐵管ニ蒸汽ヲ通シテ溫度ヲ與ヘ且汚水ノ沈澱ヲ計リテ後更ニ之ヲ第一濾過器ヘ輸送シ濾過ヲ施シタル後下層木製濃厚槽ニテ溫メ而シテ蒸汽罐四箇ニ順次注下ス本罐ニテハ海水ヲ濃縮シテ「ボーメ」氏約六度ニ達セシメ之ヲ第一鐵製濃厚槽二箇ニ輸送シ更ニ蒸汽熱ヲ利用シ鹹水ヲ濃縮セシメ順次各木製濃厚槽八箇(蒸汽「パイプ」ヲ通シ在ルコト前ノ如シ)ニ送り蒸發濃厚ナラシメ第一濾過槽ニテ更ニ之ヲ濾過シ最後ノ結晶釜十一箇ニ注下ス此ノ際鹹水ハ「ボーメ」氏十三度位ニ上レリ結晶釜ノ下面ニハ鐵管ヲ通シ高度ノ蒸汽ヲ導ケルヲ以テ約四時間位ニテ結晶ヲ見ル製鹽ハ採取後居出場ニ放置シ苦汁ノ脫離ヲ計レリ從業者ハ經營者ノ外全部雇人ニシテ機關長、製造夫、火夫、技術員、事務員等約二十人ヲ使用セリ(參看第四十二圖)

鹿兒島專賣支局管内

管内ノ整理地ハ三縣ニ跨リ入濱鹽田アリ揚濱鹽田アリ入濱鹽田ニシテ堤防ナキモノ、揚濱鹽田ニシテ築造ノモノト自然濱ノモノトアル等各地固ヨリ差異アルヲ免カレサルモ概ネ小規模ニシテ製鹽地ノ狀況製鹽ノ業態等相類似スルモノ尠シトセス依テ左ノ三方面ニ大別シ其ノ梗概

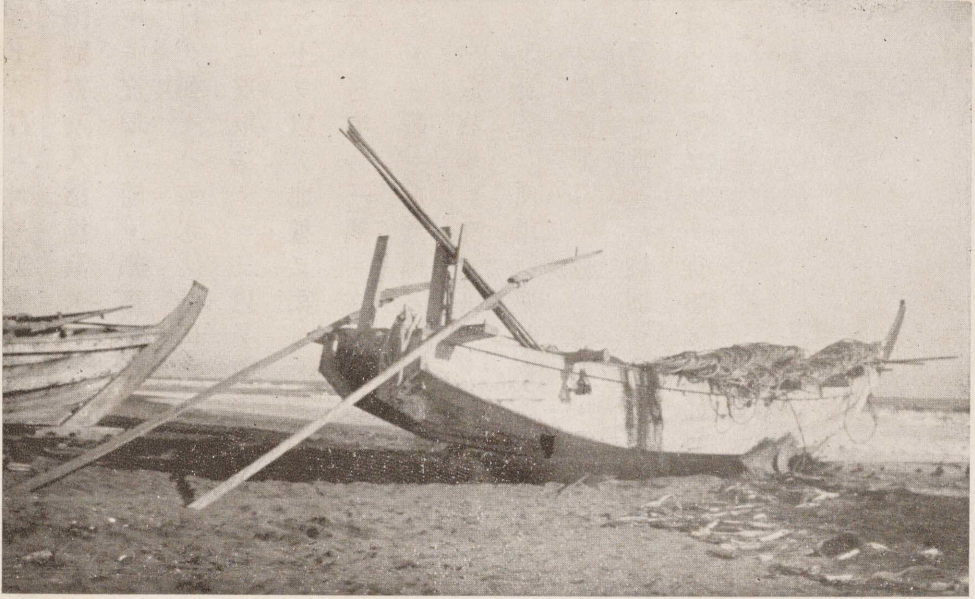
ヲ述ヘム

(西海岸地方) 製鹽地ハ湊町、川内、出水三出張所及阿久根水俣兩派出所所屬ニ涉リ製造人員九百四十餘人ノ多數ヲ算スルモ製鹽地段別僅ニ百十町歩弱ニ過キス出水地方ハ鹽田一戸前平均一町歩ノモノアルモ阿久根地方ハ鹽田ノ如キハ一戸前平均僅ニ五畝歩ニ過キス何レモ入濱鹽田臺取ニ屬スト雖阿久根村ノ鹽田ノ如キハ海岸ヲ距ル十數町ニ位置シ田畑ト交錯シ甚キハ國道ヲ隔テタル山脚ニ近ク採鹹セルモノアリテ里人弘法鹽田ト稱ス蓋地層ノ構成上遙ニ海水ヲ通スル如シ一般ニ生産高僅少ニシテ副業トシテ經營スルニ過キス煎熬場ハ概シテ數人ノ共同使用ニ係リ煎熬釜ハ何レモ鐵釜ヲ用フルモ燃料ハ松葉粗朶又ハ薪材ニシテ溫釜ヲ使用スルモノナシ採取鹹水ハ水俣及出水地方ニ於テ溜ニ貯藏スルノ外他ハ何レモ桶ニ貯藏セリ特ニ湊町地方ニハ鹹砂ニテ貯藏スルヲ以テ鹹水溜トシテハ釜屋內ニ數釜分ニ注加スヘキ量ヲ收容スヘキ桶一箇ヲ所持スルニ過キス(參看第四十三圖)

(薩摩半島地方) 製鹽地ハ直轄指宿出張所、喜入、東南方兩派出所所屬ニ涉リ製造人員八百九十餘人ノ多數ニ上ルモ製鹽地段別八十二町餘歩ニ過キス入濱鹽田ト揚濱鹽田ノ二種ニシテ何レモ臺取ナリ入濱鹽田ハ概ネ前記セル西海岸方面ト大差ナキモ唯東南方ノ製鹽地ハ堤防ナキ爲大潮ニ際セハ全部海水ノ浸ス所トナル何レモ鹹砂ヲ以テ貯藏シ煎熬ニ際シ鹹水ヲ浸出セリ揚濱鹽田ハ鹿兒島灣內ニ面スル沿岸ニ點在シ自然濱ノ一部ニ土ヲ以テ地盤ヲ築造シ之ニ撒砂ヲ撒布シ鹹水ハ入濱鹽田ト同ク鹽田中ニ設置シタルこみ(沼井)ヲ用井採取ス入濱揚濱ヲ問ハス煎熬場ハ多クハ數人ノ共同使用ニ係レリ二、三溫釜ヲ併用スルモノアルモ何レモ鐵製角形ノ結晶釜ノミヲ用井薪材粗朶ヲ燃料トス器具ハ多クハ粗雜簡單ナルモノノミニシテ何レモ農漁ノ副業トシテ餘暇之ニ從事スルニ過キス

(宮崎地方) 製鹽地ハ宮崎、福島、細島三出張所及細田派出所所屬ニ涉リ製造人員九百九十餘人ノ多キヲ占ムルモ製鹽地段別僅ニ九十九町餘歩ニ過キス入濱鹽田ト揚濱鹽田トノ二種アリ細田地方ハ入濱、揚濱共ニ悉んじよびみト稱スル桶ヲ使用シ所謂槽取ニ屬シ宮崎地方ハ入濱ナルモ箄取ニ屬シ細島、福島地方ハ共ニ臺取ナリ入濱鹽田トシテハ堤防ナキモノ多ク特ニ廣瀨村ノ如キハ海水ノ鹽田面ヲ浸スニ委セ採鹹休止ノ土地ニ在リテハ一體ノ葭生地ト爲リ加フルニ箄取法ナルヲ以テ鹽田タルノ觀ヲ存セサルカ如キモノアリ揚濱鹽田トシテハ福島地方ハ土ヲ以テ地盤ヲ築キアルモ細田地方ハ總テ自然ノ砂濱ナルノミナラス煎熬場及鹹水貯藏場ハ居宅ノ一隅ニ在ルヲ以テ採鹹ニ從事セサルノ日ニ在リテハ何等製鹽地ト認ムヘキモノナシ一般ニ煎熬場ハ數人ノ共同使用ナルモ細田地方ノミハ入濱鹽田製鹽者中ニモ居宅ノ一隅ヲ煎熬場ニ充ルモノアルヲ以テ共同使用ノモノ少ナシ煎熬釜ハ鐵製角形ト丸形ノ二様アリ改良釜ヲ使用シ溫釜ヲ所持スルモノアルモ概シテ結晶釜ノミナリ燃料ハ粗朶薪材等ヲ使用ス製鹽器具ハ他ノ方面ト大同小異アルノミ唯細田地方ハ比較的高價ノ鹹水貯藏桶ヲ所持シ福島地方ニハ鹹砂ヲ貯藏スルヲ以テ鹹水貯藏桶ヲ所持セサルモノアリ製鹽業ハ何レモ農業ノ餘暇ヲ以テ從事シ産額實ニ微々タルモノナリ(參看 第四十四圖 乃 至 第四十六圖)

第一圖



東京支局管内一宮町ニ於ケル揚濱

第二圖



東京支局管内一宮町ニ於ケル煎熬場及器具

圖 三 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ村原河師大内管局支京東

圖 四 第



取筵田鹽濱入ルケ於ニ村原河師大内管局支京東

第五圖



(濱揚)場熬煎ルケ於ニ村波前内管局支戸水

第六圖



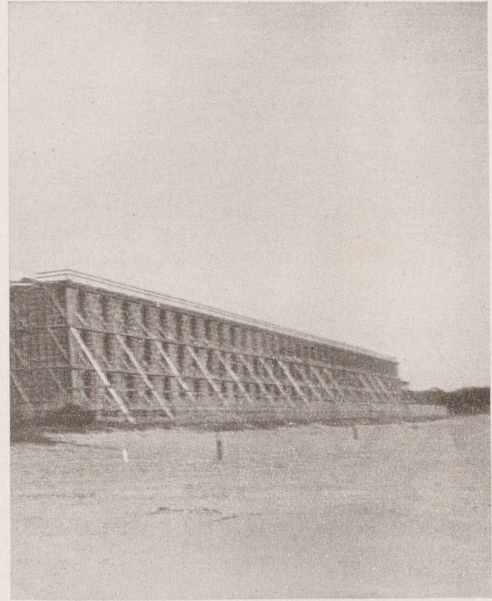
(濱揚)器容用藏貯水鹹及場熬煎ルケ於ニ村鈴高内管局支戸水

圖 八 第



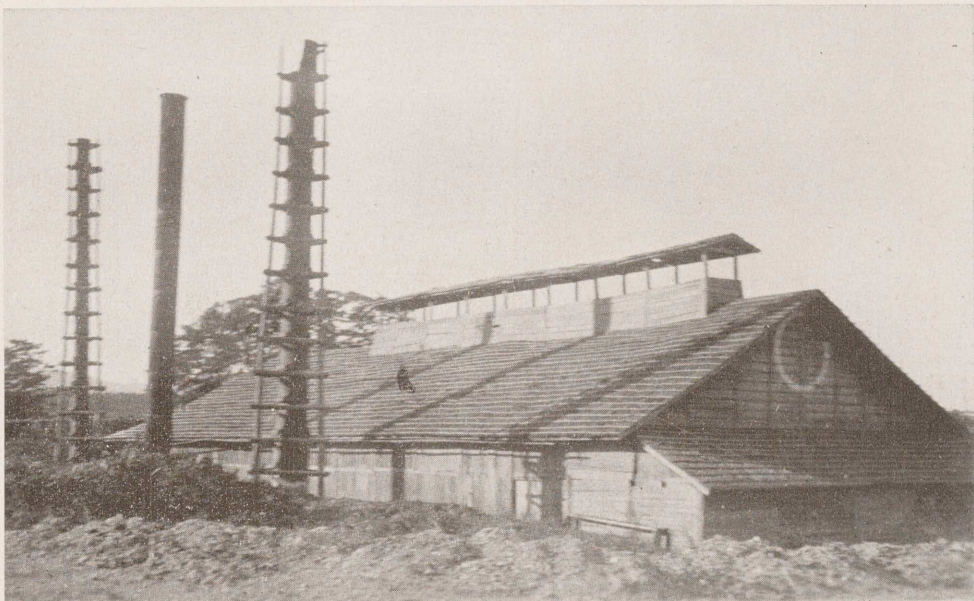
溜揚内管局支戸水

圖 七 第



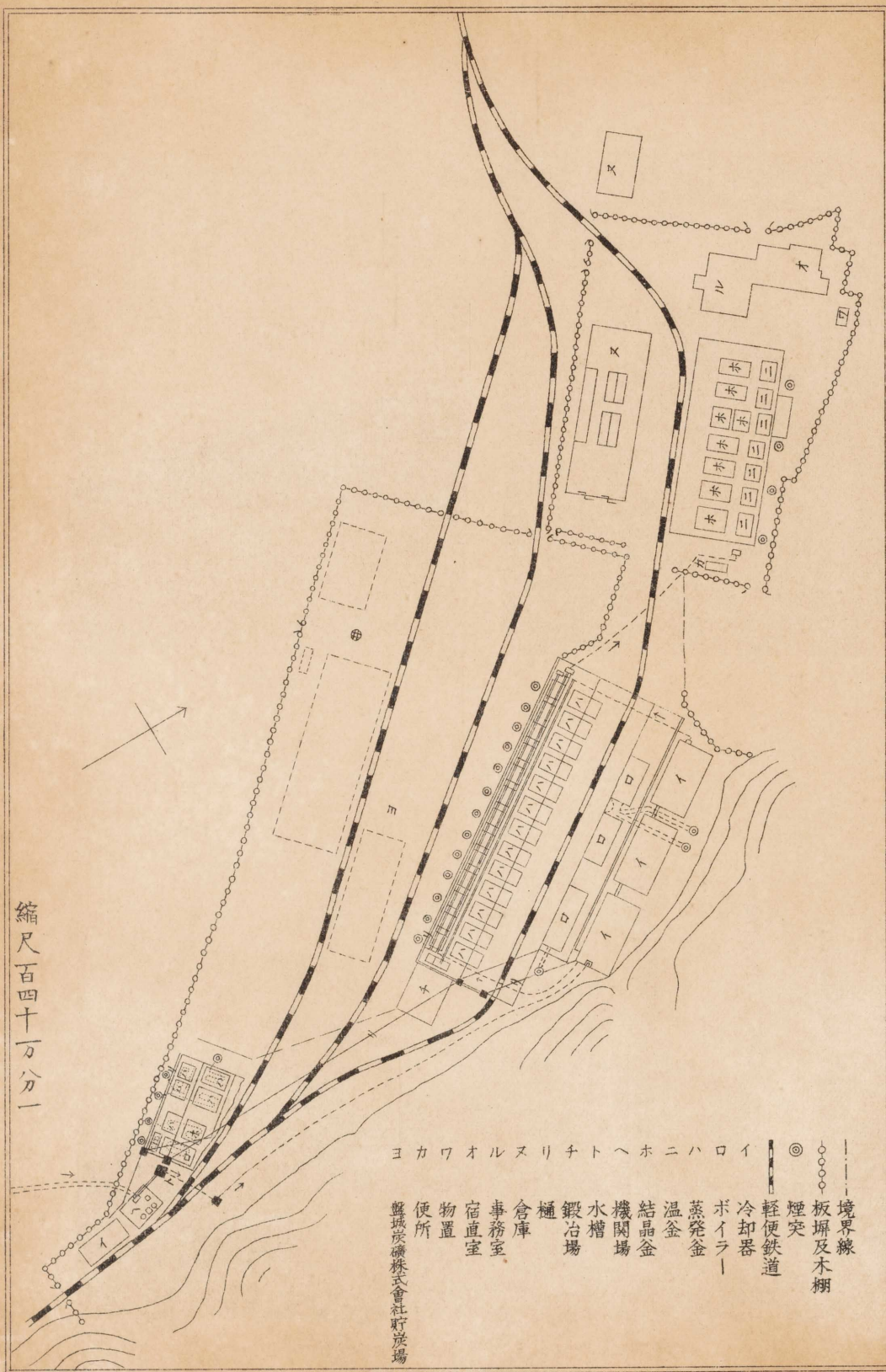
架條枝内管局支戸水

圖 九 第



場鹽製水海ルケ於ニ町原松内管局支戸水

水戸支局管内機械製表塩小名濱製塩株式會社略圖



水戸專賣支局管内 海水製塩 岩松善次郎製塩場略圖

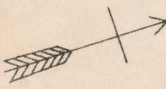
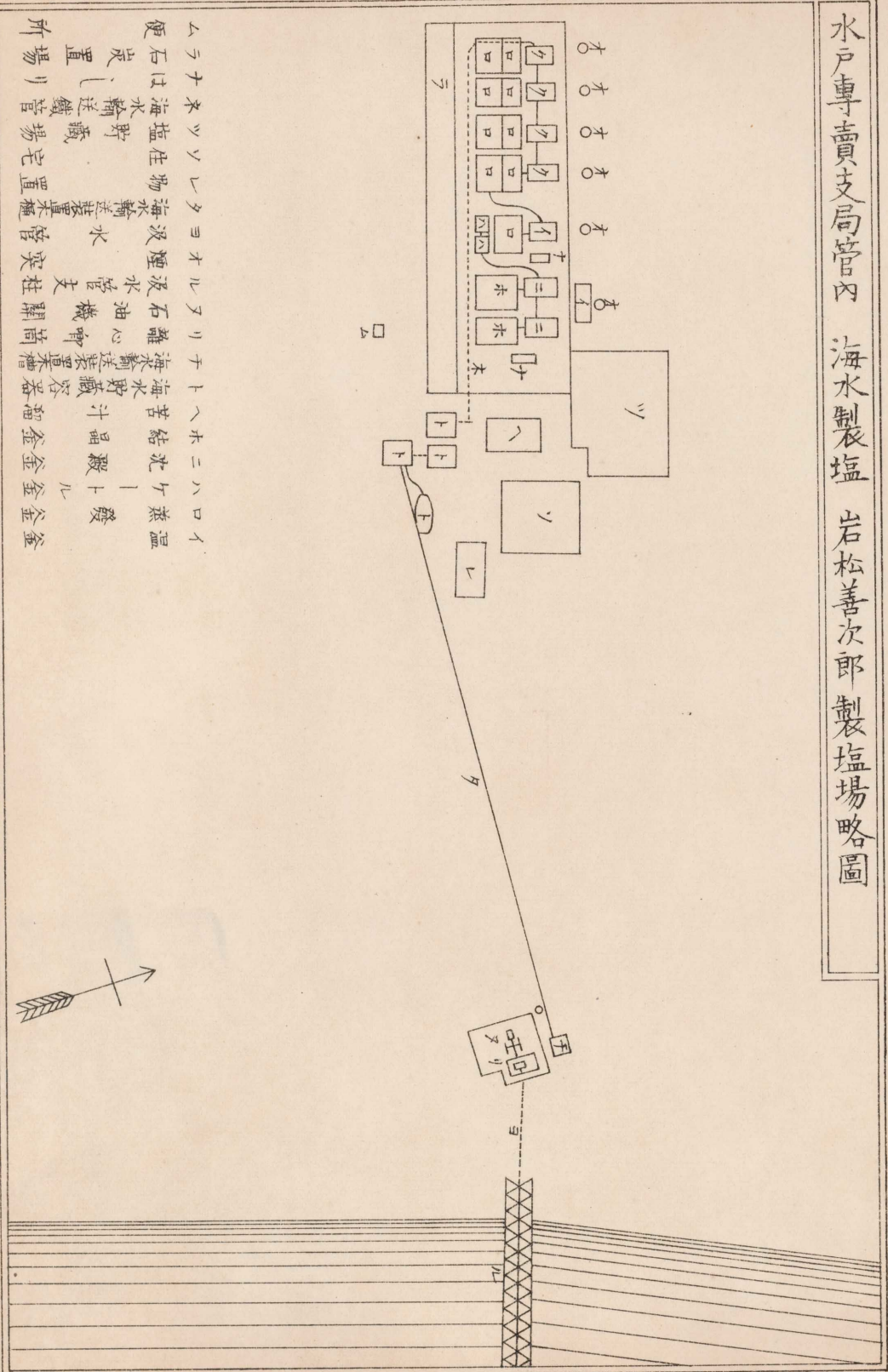
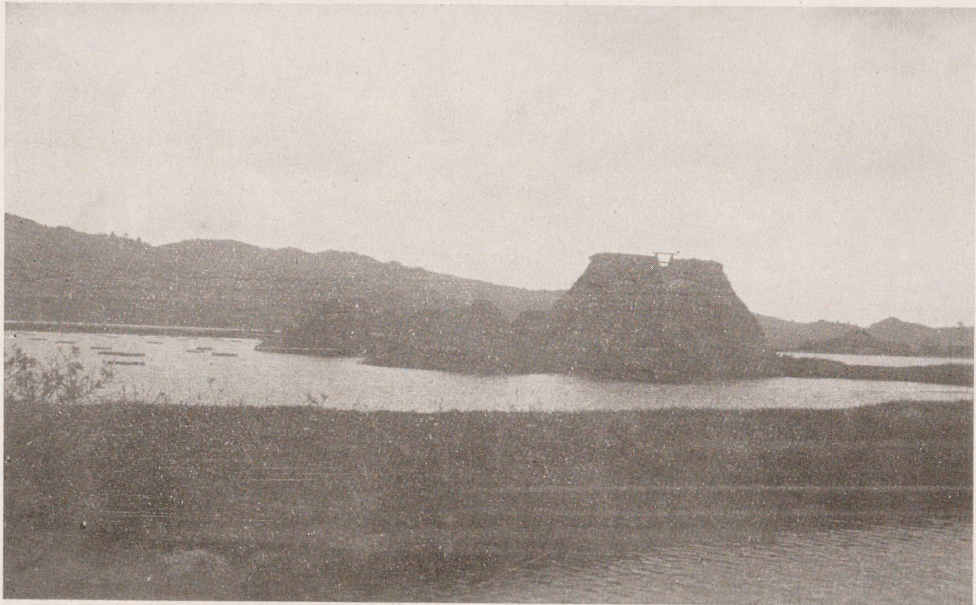


圖 二 十 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ村豐飯内管局支春三

圖 三 十 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ町沼仙氣内管局支春三

圖 四 十 第



(鹽製水海)置裝送輸水海ルケ於ニ村崎赤内管局支春三

圖 五 十 第



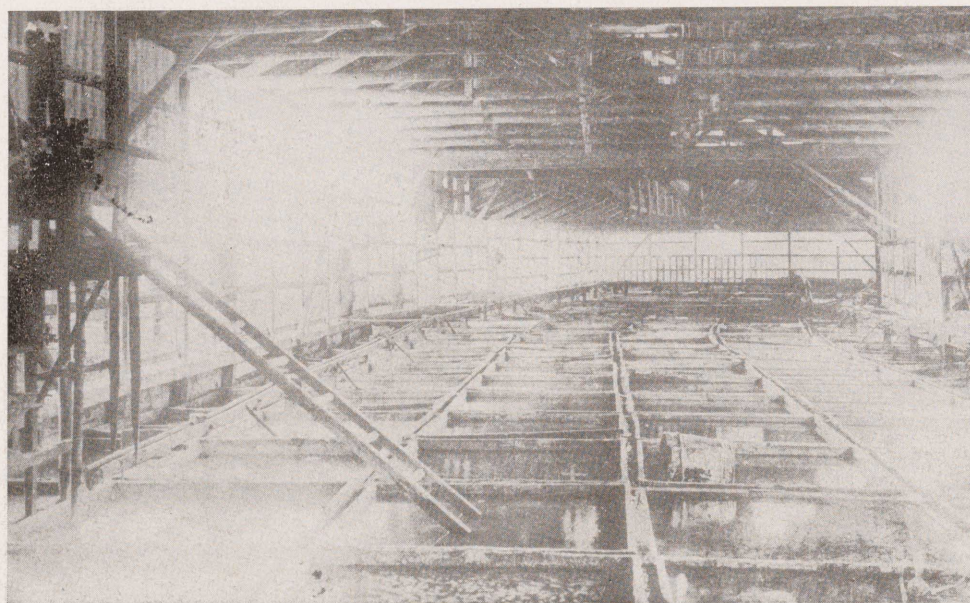
場藏貯鹽及場鹽製水海ルケ於ニ村崎赤内管局支春三

圖 六 十 第



場鹽製水海ルケ於ニ村關珠念内管局支春三

圖 七 十 第



部内場鹽製水海用利熱泉温ルケ於ニ村内野内管局支春三

圖 八 十 第



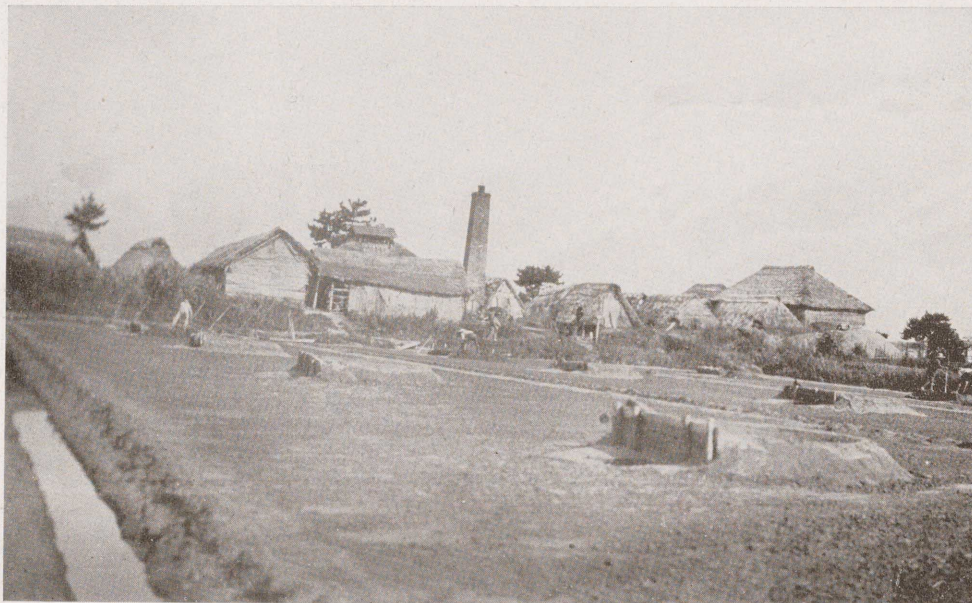
濱揚ルケ於ニ村浦千八内管局支雲出小

圖 九 十 第



具器及場蒸煎ルケ於ニ村田角内管局支雲出小

圖 二 十 二 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ町岩成内管局支屋古名

圖 二 十 二 第



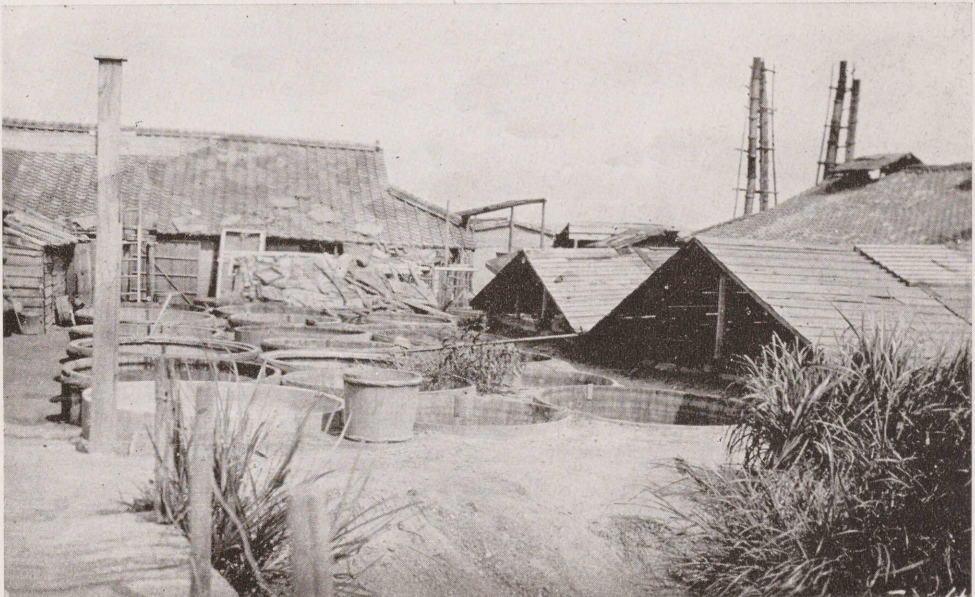
(濱入)地鹽製ルケ於ニ村部黒東内管局支屋古名

圖 二 十 二 第



樽ルス用使ニ搬運水鹹ルケ於ニ村原篠内管局支屋古名

圖 三 十 二 第



場鹽製水鹹入買ルケ於ニ村踏雄ノ内管局支屋古名

圖 四 十 二 第



田鹽式動流ルケ於ニ村塚大内管局支屋古名

圖 五 十 二 第



場熬煎ルケ於ニ村穂増東内管局支屋古名

圖 六 十 二 第



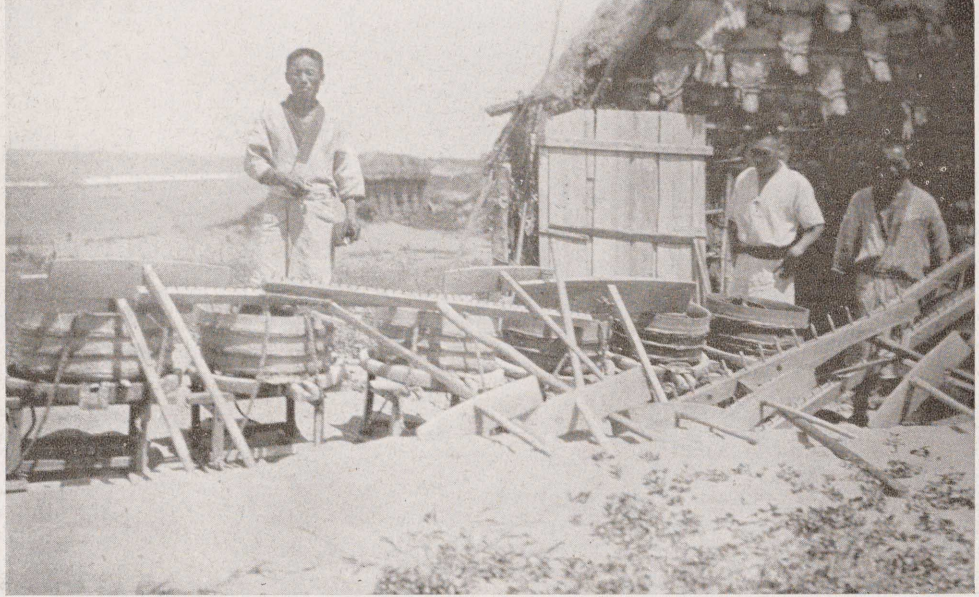
濱揚ルケ於ニ村田西内管局支屋古名

圖 七 十 二 第



濱揚ルケ於ニ村湯北内管局支屋古名

圖 八 十 二 第



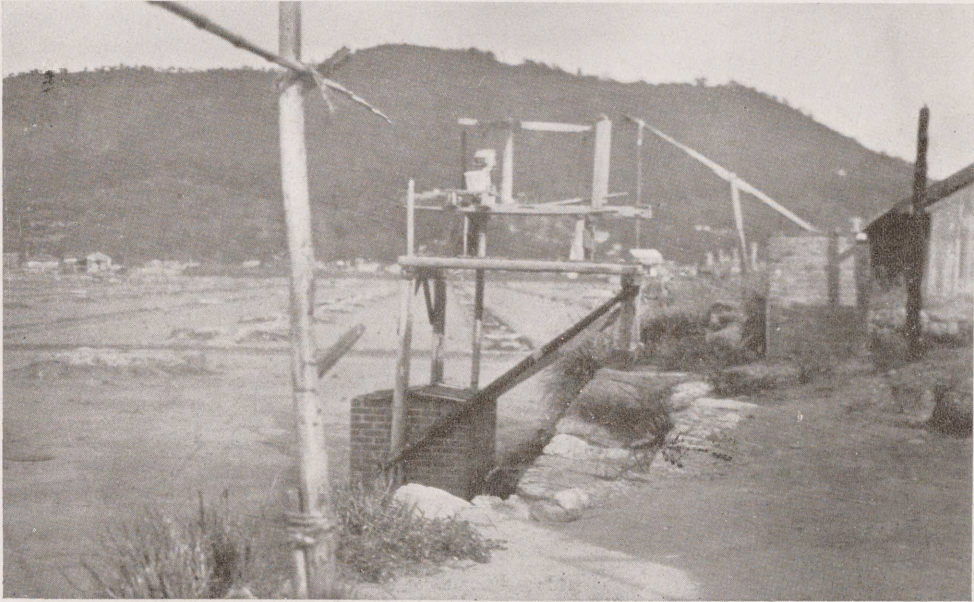
具器用鹹採及場蒸煎ルケ於ニ村幸御内管局支屋古名

圖 九 十 二 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ村寺井三紀内管局支戸神

圖 十 三 第



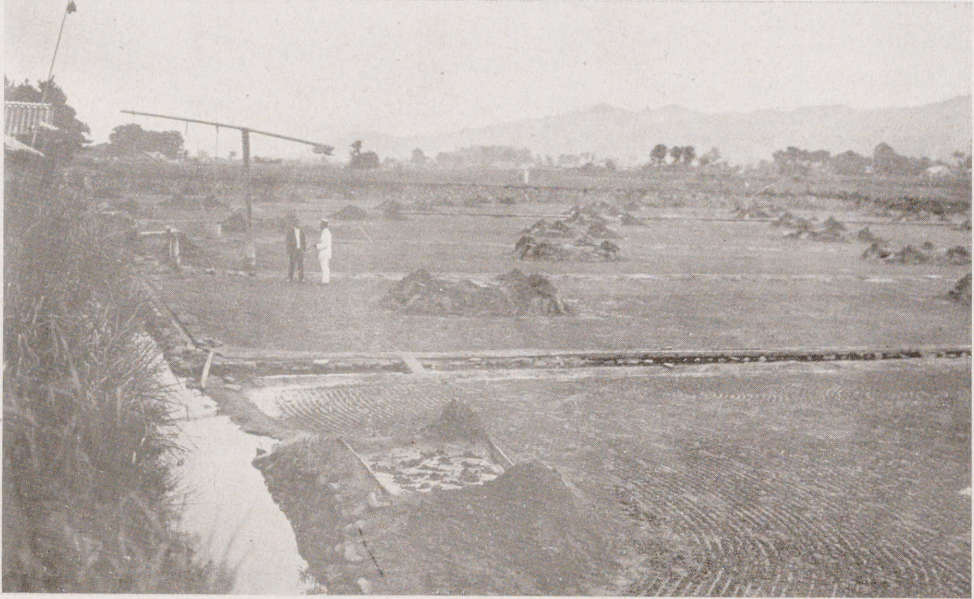
所會及置裝送輸水鹹ルケ於ニ村寺井三紀内管局支戸神

圖 一 十 三 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ村湊内管局支戸神

圖 二 十 三 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ村崎山北内管局支出版

圖 三 十 三 第



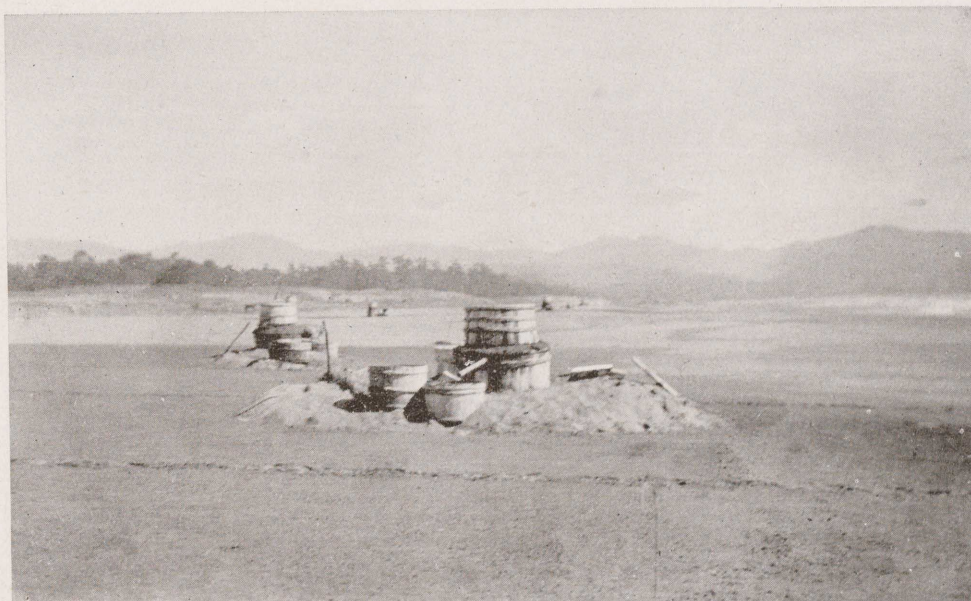
(濱入)地鹽製ルケ於ニ町田引内管局支出版

圖 四 十 三 第



場藏貯水鹹及場熬煎ルケ於ニ町本島白内管局支出阪

圖 五 十 三 第



濱揚ルケ於ニ村口ノ田内管局支養撫

圖 六 十 三 第



(隅一ノ屋納)場熬煎ルケ於ニ村里三内管局支養撫

圖 七 十 三 第



濱揚ルケ於ニ村市十内管局支養撫

圖 八 十 三 第



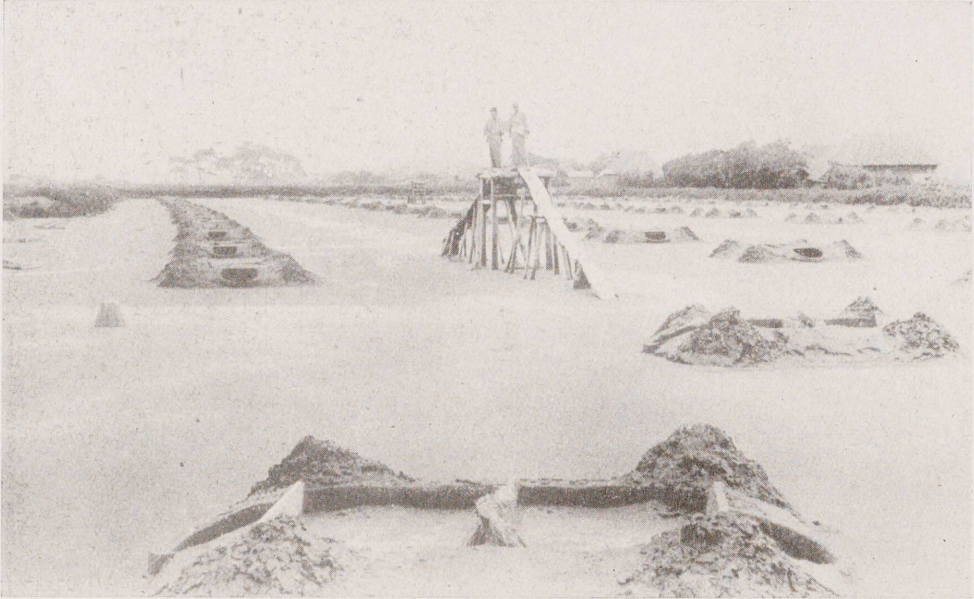
場 熬 煎 ル ケ 於 ニ 村 田 安 内 管 局 支 養 撫

圖 九 十 三 第



(濱 入) 地 鹽 製 ル ケ 於 ニ 村 田 廣 内 管 局 支 本 熊

圖 十 四 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ町崎屋津内管局支本熊

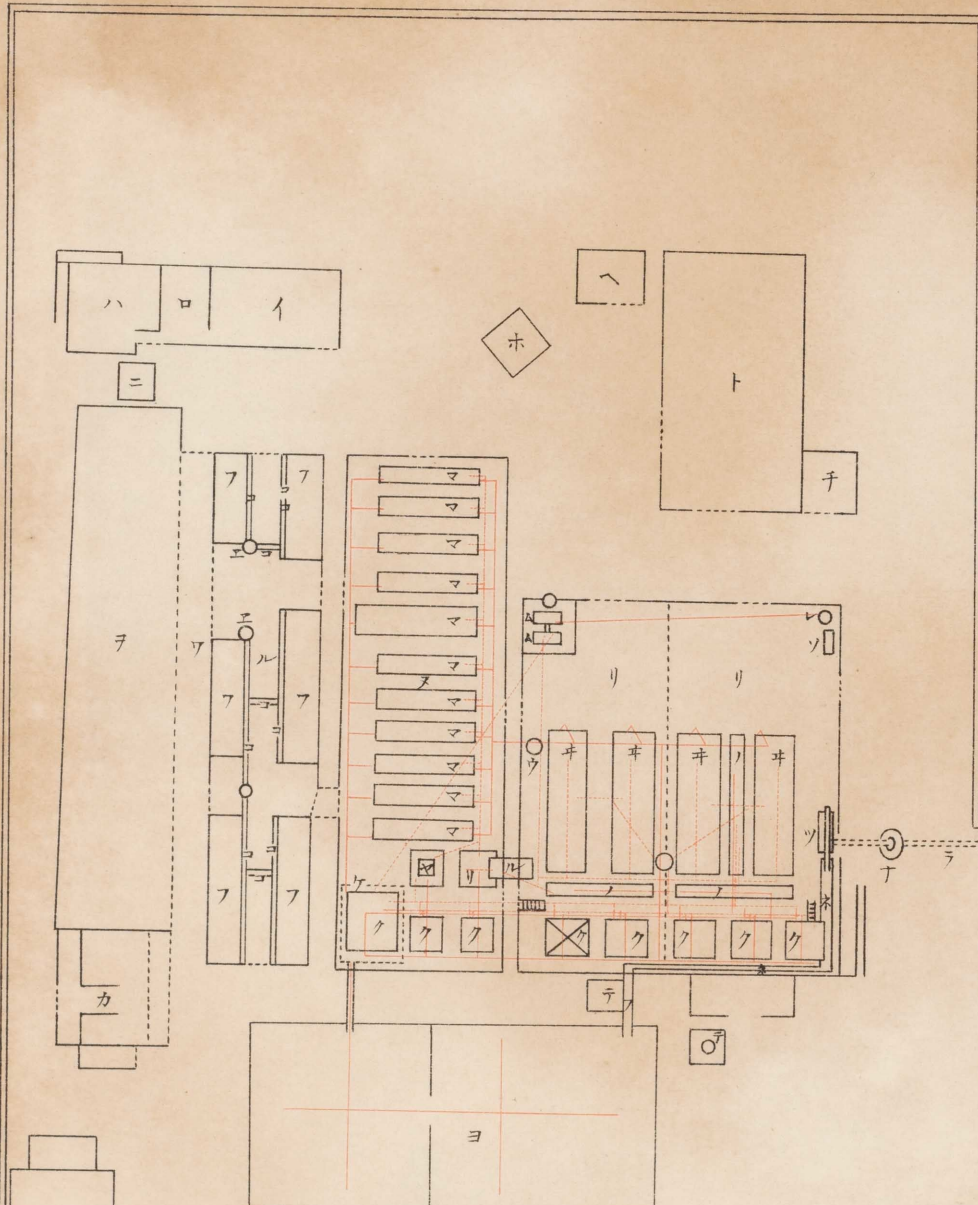
圖 一 十 四 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ町築杵内管局支本熊

※ 原資料の378頁は白頁です。
本頁は、PDFファイルの頁欠落ではないことを示すためのものです。

熊本支局管内機械製塩安增寶太郎製塩場略圖



ソ	レ	タ	ヨ	カ	ワ	ラ	ル	ヌ	リ	チ	ト	ハ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
蒸	韮	所	タ	苦	包	貯	結	汽	鍛	石	備	石	便	宿	分	事	
汽	立	立	汁	汁	貯	居	品	罐	冶	炭	炭	灰	宿	直	折	務	
パイ	汽	汽	野	野	出	出	出	室	場	庫	庫	車	上	所	室	室	
ア	罐	罐	藏	藏	場	場	場	オ	ノ	井	ウ	ム	海	海	海	遠	
海	ア	ア	コ	コ	ケ	マ	ク	オ	ノ	ウ	ム	ム	底	底	底	心	
水	テ	テ	フ	フ	マ	ヤ	ク	オ	ノ	ウ	ム	土	土	土	力		
鹹	エ	エ	塩	塩	マ	ヤ	ク	オ	ノ	ウ	ム	管	管	管	管		
水	苦	苦	床	床	マ	ヤ	ク	オ	ノ	ウ	ム	管	管	管	管		
水	汁	汁	床	床	マ	ヤ	ク	オ	ノ	ウ	ム	管	管	管	管		
水	井	井	床	床	マ	ヤ	ク	オ	ノ	ウ	ム	管	管	管	管		
水	井	井	床	床	マ	ヤ	ク	オ	ノ	ウ	ム	管	管	管	管		



圖 三 十 四 第



(濱入)地鹽製ルケ於ニ村俣水内管局支島兒鹿

圖 四 十 四 第



溜水鹹及屋釜ルケ於ニ村俣水内管局支島兒鹿

圖 五 十 四 第



濱揚ルケ於ニ村田細内管局支島兒鹿

圖 六 十 四 第



場藏貯砂鹹及田鹽濱入ルケ於ニ村島福内管局支島兒鹿